

# 平成9年を振りかえる

4階東病棟婦長 鈴木 多恵子

---

当病棟のこの1年を振り返ると、スタッフ1人1人が何か変えようと言う意識が現われた年であったと思います。平成9年の4階東病棟の看護目標は看護局の目標に準じて『思いやりあたたかさのある環境の中で、その人に適切な看護を実践する』と、しました。この目標を念頭に、1年間看護を実践してきたのですが私自身婦長となり2年目で自分の思っている看護方針を打ち出したり、十分な指導も出来ず納得のいく看護が実践されて来たのか不安です。でも、スタッフはその未熟な婦長をバックアップしてくれ色々な意見を出してくれました。

1ヵ月に1回勉強会を計画し、検査の内容やその検査にあたって看護婦がどのように看護するのか、当科の医師に協力を得ながら勉強をしたり入院患者さんの事例を取り上げて、治療方針と看護方針が同じ方向であるかの確認をしたりしました。又、第Ⅱ内科の医師が主催している糖尿病教室がありますが、この会は当院の一般病棟に入院中の患者さんを対象に医師、薬剤師、栄養士、看護婦が毎週水曜日に担当を決め行っています。その為、幹事の看護婦が事前に参加患者さんの把握をしたり、当日患者さんの誘導をしたり、第4週目の看護婦担当の資料作りを勤務外に集まって行っています。

又、毎週水曜日の朝8時から8時30分までは第Ⅱ内科の医師と看護婦で、1週間の患者さんの治療方針を確認する時間をとっています。

看護婦独自では、病棟内で委員会を作って活動しています。業務改善委員会は体温表やカーデックスの使い易さを考えての見直し、土日祝祭日の業務内容の検討と再確認など1ヵ月に1回の割合で話し合いを持っています。看護研究委員会も、看護過程を見直すと言うことで1年間取り組んできました。名寄短大や医師会の学生の実習についても、婦長及び主任を含む6名のスタッフで実習始まりの第1週目の火曜日と実習終了後には評価を含めて実習指導会議を持ち、指導者が学生に共通の指導が行えるよう話し合ってきました。

上記が当病棟の1年間ですが、この内容を基礎として来年度は

- ☆1ヵ月1回の勉強会の定例化
- ☆糖尿病教室の充実
- ☆各委員会の定例化
- ☆看護過程の内容の充実

これらの事項が少しでも確立できるよう、スタッフ一同仲よくどんなことでも話し合える環境を作って行きたいと思います。